

# 放送教育だより 第57号

全通研 放送教育研究委員会 令和3年3月25日発行

## ◆コロナ禍における各校の取り組みについて

### 埼玉県立大宮中央高等学校

令和2年度 放送教育への取り組み（臨時休校への対策を中心として）

○学校ホームページに「教科のページ」を設置

（内容）各教科からの連絡・レポート解説プリント・動画やスクーリングで使う資料の掲載

○臨時休業中、生徒の家庭学習を支援する必要から、動画の配信を行うこととなった。

教員の講義動画を撮影し、YouTubeにアップロードし、家庭等で生徒に視聴させる。

（あくまでも自宅学習の補助という目的…スクーリング代替にはしない）

物理基礎…第1～5回レポートの解説動画をYouTubeに掲載

生物基礎…第1回スクーリングを前編・後編に分けて配信

国語総合…レポートの内容を解説しながら、レポートを完成させていく動画を配信

数学Ⅰ・Ⅱ・A・B…レポートの内容を解説しながら、レポートを完成させていく動画を配信

○「ICTプロジェクトチーム」の立ち上げ

（目的）ICTを活用した教育活動を検討・提案し、それを各教科で実践できるようにサポートする。

（構成）各教科からの代表8名＋教頭

○「授業動画配信のすすめ」資料を作成し職員研修会を実施。

<内容>撮影の方法・編集方法・アップロードの仕方・QRコードの作成・生徒への通知

○「Google Classroom」活用についての職員研修会を実施

今年度は試験運用をし、来年度から本格的運用を行う。

- ・補助的な授業資料の掲載
- ・スクーリングの補足としての授業動画の掲載
- ・学校や教科からの連絡、アンケートなど

○Google Formsを利用した生徒応答システム（「物理」のスクーリングで試行中）

- ・Formsで選択肢問題を作成→QRコード化
- ・スクーリング中に生徒にスマホで読み取らせ解答させる
- ・解答内容や分布などが瞬時にわかる→生徒の主体的な授業参加につながる

○NHK 高校講座の放送視聴によるスクーリング出席の減免について（5 教科→10 教科）

（従来）地歴公民（地理B・世界史B・日本史B・現代社会）理科（科学と人間生活・生物基礎・物理基礎・化学基礎）英語（コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ）家庭（家庭総合）情報（社会と情報）（R2年度）上記に加えて、国語（国語総合・古典・現代文B）数学（Ⅰ・Ⅱ）商業（ビジネス基礎）体育（体育1・2・3）芸術（音Ⅰ・美Ⅰ・書Ⅰ）の全教科が視聴票の代替を認める。

※ 臨時休校措置への対策として、NHK 高校講座の活用や動画の作成、さらに生徒の自学自習の支援が行き渡るような環境づくりへと一気に学校全体が動く機会を得ることができました。今年度は、「できる教科から始めよう」といったスタートでしたが、来年度はさらに充実したものを生徒たちに提供できると思います。

（文責：放送教育研究委員 吉田 健）

## 栃木県立学悠館高等学校

### 「NHK 高校講座」の利用について

本校は平成17年度に開校したが、栃木県内唯一の通信制である宇都宮高校の定員を分割する方式だったため、おおよそのシステムもそのまま導入された。

NHK 高校講座の活用も「面接指導の代替」として行われ、放送視聴票を提出し添削を受けることで出席に認めていた。

平成24年度に放送教育を見直す動きが出てきて、話し合いの上で次のような活用が提案された。

(1) 報告課題の中に、NHK 高校講座を視聴して答える設問を入れる。

- ① 常勤教員担当の科目は総レポート数の半分の回数以上入れる。
- ② 非常勤教員担当の科目は1回以上の報告課題に入れる。

(2) 面接指導でNHK 高校講座を視聴させる。

- ① 年間で1回以上視聴を取り入れた面接指導を展開することとしている。

通信制の学習システムから考えた場合、報告課題と面接指導に放送視聴を入れるということが理にかなっているという結論から、どのように視聴させるのか、どのように視聴させると学習効果が上がるのかが議論され、上記の活用法に落ち着いた。

実際には完全実施までには3年を要したが、全教員が共通の認識の元でNHK 高校講座の活用に目を向けることができた。もちろん、面接指導の代替も行われていた。

その後も

(3) 学び直しのため「ベーシック」の放送を活用する。

(4) QRコードの利用

などの工夫を重ねてきた。

令和2年度の新型コロナ感染対策が発表され、4・5月の登校禁止により通信制の面接指導も登校しての指導ができない事態の時に放送教育は力を発揮した。

本校では面接指導のリモート指導やビデオ配信に対応が難しかったため、NHK 高校講座の視聴による面接指導出席扱いを最大限に活用した。出席に替えるだけでなく、報告課題を行うための学習に効果があるとの考え方によるものであった。

そのため、

① 5月の面接指導はすべて放送視聴による出席を認める。

NHK 高校講座の放送のない科目については、学習の効果が認められる番組を活用することとした。生徒も登校できないため、全受講科目の放送視聴用紙を郵送した。

② 6月の面接指導は、登校不安のある生徒に対して放送視聴による出席を認める。

精神的に不安を抱える生徒も多いため、放送視聴による出席を継続して認めることとし、登校できるか視聴用紙を提出するかは生徒の判断に任せた。

本校では NHK 高校講座は学習教材としても有効であると考えている。自宅自習で教員の指導を受けられない場合の指導の代わりになり得るものとの位置づけである。

現在はスマホからホームページにアクセスして視聴できるので、時間や場所にも限定されず、いつでもどこでも学習が可能である。

(文責：放送教育研究委員 松本 一則)

## 千葉県立千葉大宮高等学校

### 「NHK 高校講座」の活用について

本校は NHK 高校講座を、教科や科目の限定はあるが、番組を視聴し、放送視聴票を提出し、添削を受けることで出席の一部免除とするための視聴番組及び放送として活用している。

また、一部の教科ではスクーリングで視聴させたり、レポートに NHK 高校講座を視聴して解答させる設問を取り入れたりするなど活用している。

NHK 高校講座については、以前からこのような活用を行ってきた。しかし、令和2年2月に国からの臨時休校の要請があり、4月以降、学校行事及びスクーリングを予定どおり行う事が困難な状況となった。

その対応として、以前より本校で行われていた NHK 高校講座の視聴によるスクーリングの出席免除扱いを活用するとともに、各生徒にパスワードを配付し、学校ホームページに学習を進めるために参考になる教材をアップロードする取り組みを行った。同時に、授業動画を作成し、学校ホームページにアップロードする案も挙がったが、学校ホームページに載せられるデータ容量の制限が厳しく、結果としてアップロードができなかった。

前期は、例年より多くの生徒が視聴票を利用し、スクーリングの出席時数を満たすことができた。結果、前年度と比べ単位修得率の向上にもつながった。単位修得率向上の要因の全てが視聴票の成果とは言いきれないが、多くの生徒が利用したことは確かである。

通信制高校にとって NHK 高校講座は、自学自習をするうえで、有効な教材の一つであると言う結果と考える。

(文責：放送教育研究委員 渡邊 智恵)

## 東京都立一橋高等学校

○本校におけるこれまでの NHK 高校講座活用状況

- ・スクーリング出席代替としての活用はしておらず、自学自習用教材として周知
- ・年度はじめに新入・転編入生には NHK 高校講座のリーフレットを配布
- ・各科目のレポートに、対応する科目の「年間放送計画表」を掲載
- ・令和2年度に刷新した「総合的な探究の時間」(2単位)レポートでは、全2通のレポートそれぞれに、指定された NHK 高校講座の視聴が必要な「視聴問題」を出題

## ○コロナ対応における NHK 高校講座活用

### 【対応時期】

<4月下旬>前期スクーリングを NHK 高校講座の視聴により代替することを決定

(土曜日は生徒個別指導形式に変更)

<5月下旬>『スクーリング出席数互換申請書』(課題)、Q&A、代替時間数一覧を生徒に郵送

<9月3日>『スクーリング出席数互換申請書』提出締切(再提出締切:9/17)

### 【視聴代替の内容】

提出方法:原則郵送による提出

科目:NHK 高校講座(20分)の該当する番組がある科目は、従来の「出席すべき回数」の10分の6を上限として代替を認めた、該当する番組がない科目(数学A、情報の科学など)、講師が担当する科目(芸術)は、スクーリング出席数を同程度免除した。

課題:NHK 高校講座(20分)の該当する番組を2回分視聴し、『スクーリング出席数互換申請書』の内容が十分であると認められれば、スクーリング1時間分として認定した。

申請用紙は全科目共通書式とし、A4一枚の両面に、2回分の視聴課題、返送先住所、学校評価欄等の記入スペースを収めた。申請用紙は最初に送付した用紙を各自でコピーするか、学校HPからもダウンロードして印刷できるようにした。

<http://www.hitotsubashi-h.metro.tokyo.jp/site/tsu/content/000414255.pdf>

視聴対象:該当する科目であれば、どの回を視聴してもよいこととした。ただし、体育は、保健体育の「体育理論」の回のみを対象とした。

視聴対応:NHK 高校講座の視聴方法をまとめたプリントおよび各科目ページにつながるQRコードを印刷したプリントを送付。家庭での視聴が難しい生徒への対応として、放送日にテレビやラジオで視聴する方法と、本校のOA教室または図書館にあるパソコンで視聴する方法を示した。(緊急事態宣言中は登校を控えさせた)



### 【振り返り】

- ・学習メモを写す生徒と、内容の詳細なメモを取ったり、自分の意見をしっかり考えたりする生徒とに2極化。
- ・科目によって提出率に差異があった(もともとの出席規定数と関連する?)
- ・体育はラジオのため、実習の代替としては内容に課題あり。6時間分の課題提出で、提出枚数が膨大になり、物理的に内容確認が大変だった。
- ・環境だけでなく、操作方法的に視聴が難しい生徒へのサポート体制も必要。
- ・登校してOA室でNHK 高校講座の視聴を行った生徒は延べ4人。図書館利用生徒もそれほど多くはなかった。
- ・レポートで扱わない内容の回を指定してもよかった。視聴しないとできない内容にするなど、今後実施する場合には改善の余地がある。

次年度以降の活用については未定であるが、生徒にとっても教員にとっても、有意義な取り組みとなった。

(文責:放送教育研究委員 山口 瞳)